



赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

にゅーすれたーふじやま・長泉

日本ていいな。



2015.9

パナソニックエイジフリー介護チェーン

すっかり秋らしい陽気になりました。昨年の10月のにゅーすれたーではノーベル賞、日本人三氏受賞のことを書きました。今年も大村智さんと梶田隆章さんお二方の受賞です。敗戦で日本中が打ちひしがれていた時、湯川秀樹博士が受賞されて日本は奮起することができたそうです。あの湯川秀樹さんから数えて25人の方がノーベル賞に輝きました。本当におめでたいことです。

ラグビーW杯も気になるところです。日本は南アフリカ・サモアに勝ってW杯1大会2勝。初めての快挙ということでベスト8入りしました。日本中が沸き立っています。全くラグビーのことはわかりませんが、あのぶつかり合いを見ているとやはりあの体格でなければできないスポーツだとわかりました。サモアとの戦いを見た外国人の方も日本のプレーにエールを送っていました。野球やサッカー、バレーボールに比べ、日本人にとってはあまり馴染みのないスポーツですが、これでファンも増えること間違いないでしょう。

我が家の菜園のキャベツやレタスがそろそろ「らしく」なってきました。この時期、朝の食卓に乗るサラダはキャベツやトマト、キュウリとすべて購入品なので寂しい限りです。一番感じるのは静岡の方言で「みるい」買ったものにはみるさがないのです。*幼い子のことを「みるい子だなあ」とも表現します。果樹園の柿もそろそろ収穫時期になります。採れ次第ふじやま店は置きます。ご希望の方は差し上げますので、ご来店くださるかお電話ください。



「赤い羽根共同募金」

10月1日~12月31日

赤い羽根共同募金は毎年10月1日より、全国一斉に展開されます。これまで、地域における高齢者の居場所づくり、障がい者の就労を支援する作業用設備等の機器整備、子育て支援等、地域社会の福祉推進のために助成されており、災害時における被災地支援にも役立てられております。**市民のみなさまのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます**

赤い羽根共同募金は、民間の運動として戦後まもない昭和22年に、市民が主体の取り組みとしてスタートしました。当初は戦災復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に、資金を支援する機能を果たしてきました。その後、「社会福祉事業法(平成12年社会福祉法に改正)」という法律をもとに「民間の社会福祉の推進」に向けて、社会福祉事業の推進のために活用されてきました。そして半世紀を経た今、社会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む、民間団体を支援する仕組みとして、また、市民のやさしさや思いやりを届ける運動として、赤い羽根共同募金は市民主体の運動を進めています。赤い羽根共同募金は各市町村で展開されており、富士市は富士市共同募金委員会(富士市社会福祉協議会)が実施しております。赤い羽根共同募金は、市民自らの行動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ」です。集められた募金は、私たちの住んでいる富士市の福祉活動に加え、災害時の被災地支援にも大切に使われています。(富士市社会福祉協議会 HP より)



街頭募金に立つ松本会長様はじめ
就労支援施設の皆様

皆様、ご協力よろしくお願いたします。

渡邊啓視